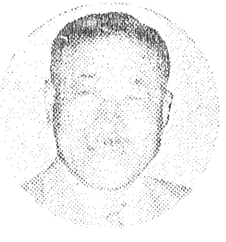
広報南国

編集発行
南国市役所
電話(代表)後免1番
印刷所
安岡印刷所

広報は…………
…………みんな
読むもの…………
………つくるもの

南国（なんこく）市發足

初代市長に西村氏



（写真は西村市長）

長岡郡後免、香長、野田、岡豊四カ町村と同郡介良村伊達野部落、香美郡岩村の半分を一丸とする希望の南国市は、さる一日発足。また二十四日には市長選挙が行われ西村盛之氏（六七）＝旧香長村長＝が金堂久喜氏（旧後免町長）を破って当選就任した。

新市は面積一二六、〇九平方キロ、人口四万四千四百人、人口は高知市の次である。新市発足までの体制ならびに新市当初の運営は、市長職務執行者細川幸喜氏（旧野田村長）を中心に、関係町村の幹部によって練られた。

開市式は一日午前十時から旧町村長、同議員、一般職員らが集まってつつましく行われ、市外の来賓もみかけぬ徹底した緊縮ぶりであった。

（**南国市のすがた**）昔からひらけた穀倉嶺南の中心部を占め、市内には南国警察署、高知県農業試験場、大学農学部、電話局、精薄児施設南海学園もある。国道三本のほか土讃線、土佐電鉄の軌道も走り、日章飛行場は土佐の空の玄関。工場に協和、鈴江両農機があり、稲生の石灰業は年間約六億円をあげ、十市を中心とする加温ならびに半促成園芸は年産二億円余。なお農家戸数約六千戸、水田約三千ヘクタール。名所、旧跡として杀ノ川の鳥居スギ、岡豊城址、土佐の石灰洞、国分寺ならびに貫之邸址、十市の金比羅、月見カ崎があげられる。

市長のことば

みなさんにはよくお世話になった。当選したからには、新市育成に全力をつくし、道徳を確立し市民の融和につとめ、旧町村意志をぬぐいさりたい。

これがためには、市民の声をよくきいて、明るい正しい、ガラス張りの市政をしかなくてはならない。名実そなわった田園都市をつくるため、嶺南総合開発の早期実現を期し、全市の産業を振興してそこに赤字財政を解消していきたい。みなさんのご協力をお願いする。

二室、六課に一事務所

—市役所の機構—

市役所には出納、固定資産評価の二室と総務、市民、税務、産経、財政、建設など六課のほか福祉事務所がおかれている。

福祉はこれまで土佐長岡郡福祉事務所が取扱っていた業務を、市政施行により引継いだもので、事務所は旧香長村役場を使っている。その他はいずれも後免県税、土長福祉両事務所跡（立退きによる）と旧後免町役場を使っている。

四支所と一出張所

また領石、三和、十市、岡豊には支所がおかれ、旧香長村の日章出張所は、南国市役所の出張所となった。

市長選

徹夜で開票

初代南国市長選挙は二十四日午前七時から四十六カ所の投票所で一斉に行われ、午後六時までに終了。同夜八時半から後免野田小学校で開かれ二十五日午前四時四十分で終了した。

当日有権者総数二七、六六〇人。投票総数二三、七〇二票、有効投票二三、五三六票、無効一六五票、不足一票で投票率八五、六九％

開票場には三百人を越す参観人と、新聞、放送などの報道陣が詰めかけ、場外にいるものも多かった。白い票の山が、手なれた市職員の手で次々に選別され開票は次第にはかどっていく。

初めのうちは金堂氏がかなりの差をつけて西村氏をリードしていたが、こんどは逆になり始め、参観人は一喜一憂。結局両者の差は次第に大きくなって、十一時ごろになると西村氏の当確がはっきりした。

引継いで開票は続けられ、西村盛之氏が一万二千六百二十八票、金堂久喜氏一万九百八票で西村氏の当選となった。

山本氏が委員長に

市選管委決る

南国市選挙管理委員は次のとおり決定し、まず市長選挙事務と取り組み無事終了。こんどは、市議選（五日）と農委選（十七日）にそなえ市役所中どこよりもいそがしく働いている。

委員長＝山本義幸、同代理＝西村勝、委員＝森田良幸、広井幸喜、補助員＝島崎仁徳、井戸晤川田春、北村源治

一九六人の大家族

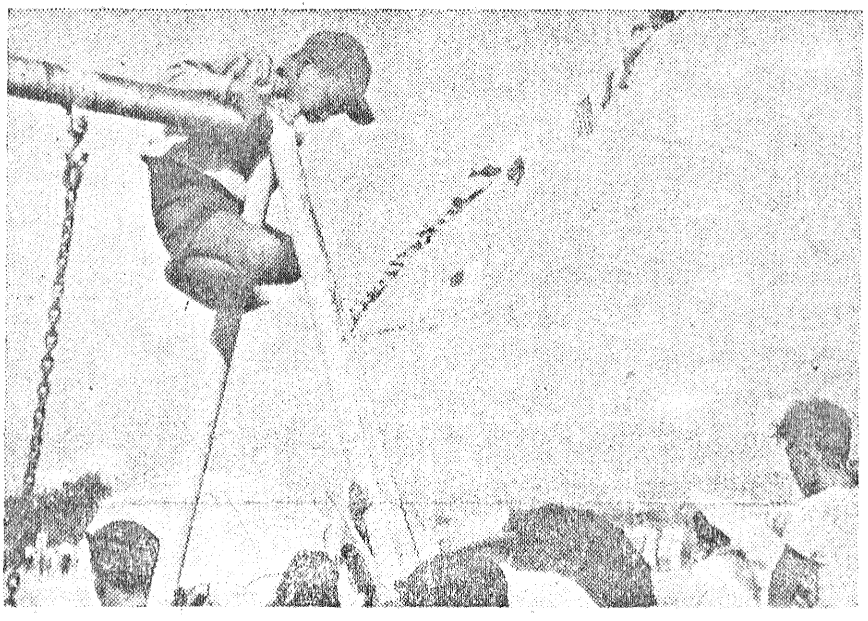
市役所の職員数

市役所の職員は現在百九十六人。次のように各課に配置されている。

総務課十五人、市民課十四人、産経課十三人、建設課十二人、出納室四人、固定資産税評価室六人、福祉事務所十八人、消防本部一人、教育委員会事務局十二人、農業委員会事務局七人、保育所六十一人、女学院三人、幼稚園一人、支所＝領石十三人、三和四人、岡豊三人、十市二人、出張所一人、議会事務局四人。

以下は事務分しょうの多い各課の内容。

〔総務課〕統計、用度、人事、庶務〔市民課〕戸籍、衛生、厚生〔産経課〕農、林、商、工〔建設課〕土木、建築、都計、水道〔福祉事務所〕土佐長岡郡福祉事務所が扱っていた市域の福祉事務全部を行う。〔教委事務局〕総務、学校教育、社会教育



秋の寸景

市役所の位置

南国市役所は前述のように後免県税、土長福祉両事務所跡と旧後免町役場を使っているが、いずれも同じ構内にあって電車通りに臨み、後免郵便局のすぐ西側に当る。

電車を利用すると「後免西町」で乗降することとなる。

教育委員決まる

市の教育委員は十月一日発令され、同三日委員会を組織した。

〔委員長〕島本保義、
〔同代理〕甲藤紀、
〔委員〕浜田春水、和田義輝
〔教育長〕山内一久、

島本氏は旧後免町教委で現在神職、旧制中学卒の四十八才。

また山内氏も旧後免町教委、商業に従事し旧制大学中退で四十四才、非常勤になっている。

市民運動会

校下別に開く

毎年この季節に、旧町村で行われていた町、村民の運動会は、新市発足により合同の市民運動会が開催されるはずであるが、発足当初の年であるため、関係各種機関の準備が整わず、ことしだけ各校下別に開催して楽しむこととなった。

これがため市から計十九万五千円の運営補助がでることとなった。

南国署と改称

後免警察署＝市内大埇＝は南国市の発足に伴い十五日から「高知県南国警察署」と改称し真新しい標札をかかげた。管内は市と大津、介良両村を加えたもので、市に岩村と伊達野が加わったため人口約千四百多くなった。

市民を感激させた

（岡豊中と前浜小六年生）

伊勢湾台風の被災者を救おうとする市民のまごころは婦人会や、青年団の活動で集められた物資でうかがえるが、わけても岡豊中学生は映画会を開いて現金一万円を、前浜小学校六年生は修学旅行の費用に当てるため石ケンを売って集めた純益の中から三千余円をそれぞれ高知新聞後免支局に寄託し、市民を感激させた。

なお市福祉事務所扱いの物資数量は次号でお知らせする。

三課を設置

市教育委員会は事務局に次の三課を設置した。

総務課、学校教育課、社会教育課

なお、それぞれの課長に岩村元治旧香長、猪野孝郎旧後免、田中管雄旧岡豊の各教育長を内定し、発令寸前のところを、職員組合が法的、道義的に疑義があると反対し中止となっている。

職員組合結成さる

南国市職員組合はこのほど次の役員を選任して発足した。（〇印長）

〔組合長〕中沢健〔副組合長〕太郎田勝、西川利男〔書記長〕門谷節男〔会計〕尾木莞温〔監査〕部築林、唐岩白龍〔情宣部〕〇岩崎厳、池本繁雄〔給対部〕〇高芝和男、西山三重〔青婦部〕〇浜田静枝、松山家俊猪野重子〔厚生体育部〕〇浜田信啓、島内日出星

市会議員選挙迫る

小選挙区制、四十六投票所

11月5日

南国市の市会議員（定員三十人）選挙は十一月五日行われることとなった。

この選挙は小選挙区制をとるため旧町村ごとに、その地区で立候補した人を選挙する。

議員の割りふりは香長地区十四人、後免地区十二人、岡豊地区二人、野田地区一人、岩地区一人で介良村から分村合併した伊達野からは選出されない。

また投票所は、市長選挙当時と同じ四十六カ所。即日次のところで開票される。

（カッコは開票時刻）

香長地区＝中央公民館（午後八時）、後免地区＝東部保育園（同）、岡豊地区＝中央公民館（同七時）、野田地区＝小学校（同）岩地区＝堀ノ内部落公民館（同）

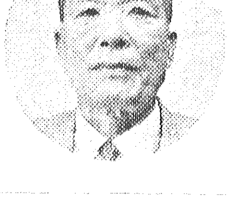
なお二十六日の告示いらい市選管には立候補届出が相次いでおり、かなり激戦となる地区もあるようだ。

一定せぬ費用

市議選の法定選挙費用は地区ごとに有権者の数が違うため一定せず、多いところでは五万円を越すところもある。

団長に山岡八郎氏

南国市消防団役員決まる



南国市消防団長は市発足の十月一日、山岡八郎氏（六四）が発令されていたが、これに伴う団組織（旧町村単位）は十四日、旧嶺南連合消防団事務所で行われ、分団長を次のとおり選任した。（カッコは分団名）

島内清久（日章）、吉川雅明（稲生）、須川渉（大篠）、大家斉（十市）、高木仙（三和）、近藤貢（前浜）、西川組（長岡西部）、中村正満（岡豊）、利岡敏澄（同南部）、依光鶴栄（同東部）、野村喜正（国府）、浜田善治（久礼田）、野島浩洋（瓶岩）、田岡信雄（上倉）、野村英憲（野田）、斉藤族（岩）

なお後免は現在未定で、近く決定される。

定期評定見送り

市内公立校の場合

市内の小、中学校教職員を対象とする十月一日の定期勤評は市教組側に、市教委組織時期からみて、評定をやらせる上に疑義があるという理由からさる十五日の提出期限には提出されなかった。

なお市教委では、当然実施すべきであるという見方をしており、今後話合いによって解決することになっている。（十五日現在）

島田氏会長に

南国市教組発足

南国市内の小、中学校の教職員二百五十三人を一丸とする、南国市教職員組合は、さる一日発足した。役、職員次のとおり。

〔組合長〕島田広（久礼田小学校長）、〔副組合長〕川村実（大篠小）、松木猪輔（長岡小）、〔書記長〕大前正男（蔦ガ池中）、〔書記次長〕豊永幸男（大篠小）、〔体育部長〕戸田直幸（大篠中）、〔文化部長〕森武司（岡豊小）、〔同次長〕岩目提愛（十市小）、〔校長部長〕長野護（日章小）。

こだま

昭和二十年、世界戦史に例のない惨酷を極めた戦争が、日本の降伏によって終戦となり、日本は食糧の窮乏その極に達した。巷には餓死寸前の国民が日を追って数を増し、人々は明日の命を如何につなぐかに汲々としているとき、天皇の食生活、すなわち台所を覗きに行った者があった。これは赤い分子とかなんとかと、当時の新聞に掲載されたものであった。▼こんど赤い国ソビエットの惑星間ステーションなるものが、お月さまの裏側を覗き、やはり月の台所物語りのカグヤ姫や、ウサギの餅つきの米の蒸し加減を覗いたわけ。▼月と地球はとても古い馴染で、潮の満干は切っても切れない間柄。月のために地球が海の水を動かして文字通り秋波を送っているか、月が地球の海水を動かしているものかこの原因も、明確な答が出ようというもの。▼南国市誕生＝初代市長も決った。選挙に勝った者、武運拙なく敗れた者。そのいずれもが南国市の発展と市民の福利を願う心に優劣のあろう筈がない。願わくば今後赤字を抱えた市の台所の健全な運営の出来るよう、覗くだけでなく、協力して見守り育てゝもらいたいと願うは筆者だけではあるまい。▼人の運、不運、幸、不幸は紙一重といわれるが、考えさせられることが多い。▼かつての十五号台風も猛り狂いながら本県を通過していたら、誕生したばかりの南国市、殊に田園都市を誇る穀倉地帯だけに、その爪跡は一層深刻なものであったであろうことを考えると身の毛がよだつ思いがする。